



さとのかせ

NO.164

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

1月号 2009年1月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

明けましておめでとうございます

お雑煮には「アオノリ派」？それとも「ハバノリ派」？



寒風の中のアオノリ干し風景



カットしたノリを枠に広げる作業

夷隅郡市のお雑煮に欠かせないものといえば、「アオノリ」か「ハバノリ」でしょう。アオノリは内湾や河口付近に育

つアオサ科アオノリ属の海藻。長さは 30~80cm。ときに 2m 以上になることがあります。食用となるものはスジアオノリを最高級とし、ヒラアオノリ、ボウアオノリがそれに続きます。夷隅川河口にはこのスジアオノリを採る漁家が 14 軒あり、県内でも“質がよい”と評判が高く「白子からも買いにくるよ」と漁家の方。しかしここ数年は不作続きとか。「因果関係は分からないが、夷隅川河口の海岸は夏に砂が寄せ、冬に引いていた。ここ数年は、夏も冬も砂の無い状態が続いている。潮の流れが変わったせいかも」。地球規模の温暖化、環境汚染がアオノリの生育に影響を落としているのでしょうか…。

“食べると幅がきく”という縁起物のハバノリは、外洋に面した浅い岩場に育つかヤモノリ目カヤモノリ科の海藻で長さ 15~25cm、幅 2~4cm。冬から春にかけて、寒風の中で行われるハバノリ摘みは冬の風物詩として知られています。ハバノリも水質汚染や土砂の堆積で採れなくなり、乱獲を防ぐため解禁時期や有料許可制とするなどの対策が執られ、海岸環境を守る活動が行われています。一人ひとりが、豊かな自然環境を守り維持するためにできることを考えたいですね。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

12月のセンター行事

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

- 『つるでリースづくり』 7日(日)
- 『もちつきをしよう』 14日(日)
- 『おかざりをつくろう』 23日(火祝)

《つるでリースづくり》

今回初の行事として開催された「つるでリースづくり」。参加者は6名（男1人、女5人）でした。参加者は、センターの工作室に集合し、つるの種類やリースの見本を見ながら、リースや、禅の円相等など、東西に共通する“円”輪“の考え方について話、つるの採取時の注意事項等々についてお話を聞いた後、身支度を整えてセンター西側の山へ向かいました。

木に複雑に絡みみついたつるを採るのは思ったよりも力がいらいます。一人では枝の反発力で思うようにはいきません。力を合わせてつるを採り、マンリョウやカラスウリなど、赤やオレンジに色づいた実を探し、ヒノキやシダの葉などを採集するうちに初対面の参加者に、仲間意識が生まれていました。

「初めての経験」と目を輝かせる人、「最近山が



荒れていて入れなかった。久しぶりだからとても楽しい」と鎌をふるう人、参加

者全員が午前中いっぱい、つる採りを楽しみました。

昼食後は採集したつるを使ってリースの制作です。当初工作室で行う予定でしたが、「天気が良いから外で作りたい」という参加者の声で、センター前広場にむしろを敷き、各自採集したつるを使いイメージ

センターピックアップ 1月

<春の七草を探してみよう>



『大和名所図会』より早蕨狩の図

早春の野山に出かけ、野草を摘んで楽しむ”野遊び”の風習。『万葉集』の巻10には「…春菜摘むらむ司馬の野の…」と春の摘草のことが書かれています。冬に不足しがちな青菜を補給し、陽光あふれる野山で心身のリフレッシュを図る。野遊びは実用を兼ねた春の行楽でした。

春の野草の代表格といえば、春の七草。実は七草は「七種」と書くのが本当とか。セリ、ナズナ、ゴギョウ（ハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（タビラコ）、スズナ（カブ）、ズシロ（ダイコン）と、文字通り7種類の野草を指します。ちなみに1月7日“七草なずな、唐土の鳥が、日本の国に渡らぬさきに…”とはやしなから七草を刻み、あつもの（汁物）やかゆに仕立て無病息災のまじないとする“七草がゆ”の風習は、大陸渡来のもので、江戸時代には五節供ひとつとして祝われるようになったとか。

古人にならい、センターの広場で春を待つ七草を探しにいらっしゃいませんか？でも、摘み取るのではなく、見守ってくださいね。

のリースを作り上げました。リースづくりに決まりはありません。つるの“声”に従って輪に曲げてゆき、木の実や枝葉を自由にあしらって出来上がりとなります。皆さんオリジナルのリースを2~3個作り上げ、「楽しかった」という声を残して解散となりました。

《もちつきをしよう》

もちつき行事の当日はあいにくの雨。前日にデイキャンプ場に張ったテントの下でのもちつきとなりました。参加者は24名（大人17名、子供7名）、15家族でした。

予想以上の雨と寒さのため、思うように動けなかったとはいえ、杵と臼を使ってもちをつく大変さと楽しさを経験できた参加者からは笑顔がみられました。今回使ったもち米は、アイガモ農法で育てたセンター産。参加者が心を込めてついた7臼のちは、もちとり粉を敷いた木杵にとって丸く形を整えて鏡餅、のし棒でのして切りもちとしました。残りは待望の試食用です。試食室の座敷の前には、あんこときなこ、大根おろし、白菜の即席漬け、味噌汁がセンターで用意されていました。用意といえば、今回のもちつき行事には、30kgのもち米を研いで一晩水に浸す、臼、杵、蒸し器、のし板、のし棒等々の洗浄、かまど、薪の準備、テントの設営等々…。センター職員の万端の用意があつてのことなんですよ。感謝とともにつきたてのおもちを存分にいただきました。おもちだけでなく「この味噌汁は本当に美味しいよ」と何杯もお代りをする方がいました。



《おかざりをつくろう》



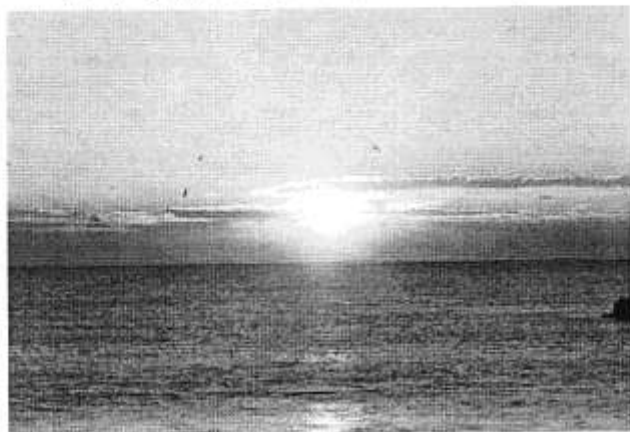
人気行事のおかざりづくり、今回も午前午後の部ともに定員オーバー。講師のはからいで、キャンセル待ちの方を加え参加者は計44名（男18人、女26人）でした。

制作は工作室にむしろを敷いて行います。まずわらをすぐり、縄用と前垂れ用に分け、縄用は全体を柔らかく叩打し、3束に分け、2つを使って縄になう。残りの1束を先の縄にからませるようにして1本の縄に仕上げる。前垂れ用は穂先の方、3分の1を柔らかく叩打し、穂先部分を三つ編みにし先の縄に通し、3つ編みにする。前垂れをつけた縄は丸く仕立て、ウラジロ、ユズリハ、ダイダイ、御幣をつけて出来上がり。慣れないわらの取扱に苦戦しながら、皆どうにか完成。多少不格好でも自作のお飾りは嬉しいもので

す。皆「良いお正月が迎えられそう」と大満足で帰路につきました。

（大東 悠子）

新年明けましておめでとうございます。



カモメ舞う初日の出(日在浦、2009年元旦)

[海岸で新春を迎える]

元日の早暁磯辺の波は穏やかで、集まった人々と共に広々とした水辺線上に横たわる雲間から昇ってくる太陽を静かに待ちました。荘厳な雰囲気の中、自然の美しさに畏敬の念を抱きながら、初日の出を迎えることができました。波間には、陽射しを浴びながらたくさんのカモメの群れが旋回していました。

[浜辺近くの植物]

イヌマキの生垣が続く浜辺近くの道路際では、水仙の花が何処も今真っ盛りで、芳香の中を散策するのは実に気持ちよいです。深紅のナンテンや橙赤色のマサキの実が冬空に映えています。サザンカはすでに花期を終えましたが、椿は蕾が大きく膨らみ花を咲かせたものもあります。一方、入江沿いのサイクリング道路付近ではススキやアシの群落が続き、穂が風に揺れる様子はとても風情があります。昨年の夏季に暑さが続いたせい、この冬は寒中花が咲く時期が、例年よりも早まっているようです。



冬空に映えるナンテンの赤い実)

[浜辺と入江の水鳥たち]

当地の冬を代表する野鳥はミュビシギですが、浜辺で波と戯れるように摂餌したり、20-30羽位が一斉に飛翔する姿をよく見かけます。夜の眠りから



海浜植物群落が紅葉した浜辺

覚めたばかりの早朝は、まだ気温も低く動作も緩慢で、羽ばたきを繰り返しウォームアップする姿がユーモラスです。海浜植物が紅葉した砂浜では、当地で夏季雛が孵ったシロチドリのファミリー(3羽程度)が浜辺を小刻みに走りながら餌を啄んでいる姿があります。入江にはカルガモ、コガモ、ヒドリガモなどが数百羽集い、葦の茂みをねぐらにしていますが、近くの小河川や溜め池にもしばしば出没します。カルガモは晴天で波が静かな日中に数百羽規模で海岸近くの波間に浮かんで

います。

[森谷 淵(もりや ふかし)]

◎今、いすみでは???

<霜柱をご存知ですか! ?>

今日は12月27日(土)、快晴です。昨夜から今朝にかけて、関東周辺は今年一番の冷え込みだったようで、センターでも最低気温-2℃を記録しました。朝9時ごろ、寒さに震えながらセンターの畑を見てみると、日陰になっているところが一面まっ白に盛り上がっていました。**霜柱(しもばしら)**です。土の中に含まれる水分が凍り、無数の柱となって土表面を押し上げる現象です。もやし程の大きさの柱が、まるでホタテの貝柱のように



大きな霜柱。1本がモヤシぐらいの大きさでした!

束なって、一面を覆っていました。踏みつけると、サクサク音がしてとても気持ちが良いです。都会では舗装されているところが多いので、あまり見かけなくなったと聞きます。最近では、霜柱を知らない子供たちもいるのではないのでしょうか。この季節、センターに午前中(10時ぐらいまで)にお越しいただければ、見られることと思います。冷え込む朝には、きっと立派なものが出てくるはずですよ。

「霜柱ウォッチング」、寒いですがなかなか面白いと思います。

※当センターの開館時間は9時からです。

いすみの気象情報(12月)

平均気温: 6.4℃ 最高気温: 20.1℃ 最低気温: -2.5℃ 総雨量: 109.5 mm



アカハラ
(ヒタキ科)

今月の

見い~つけた! No.9

センターの田んぼの脇にある竹やぶの下で、ぴょんぴょん跳ねながら地面を忙しく突っついているところを見つけました。スズメとハトの中間ぐらいの大きさ(全長23.5cm)で、お腹がオレンジ色をしているのが特徴です。春夏は山地で過ごし、秋になると平地に移動してきます。いすみ地域では「くそっぽり」と呼ばれていたそうです。昔は田畑のすみで堆肥(草木や糞尿などを野積みして発酵させた肥料)が作られていて、アカハラはそういうところによく現れて、土をほじくってミミズなどを食べていたそうです。正確な由来は分かりませんが、そういう仕草から「糞っ掘り」と呼ばれるようになったのではないのでしょうか? (堺 勇人)

1月の行事案内

★『そば打ちをしよう』定員 20 名

参加対象は中学生以上

日 時 18日(日) 9:30~14:00

場 所 つどいの家 (集合はネイチャーセンター)

持ち物 材料費実費負担、かっぱう着、捏ね鉢か
ボール、てぬぐい等

★『わらざうりをつくろう』定員 20 名

参加対象は小学5年生以上

日 時 25日(日) 9:30~16:00

場 所 ネイチャーセンター

持ち物 木ばさみ、お弁当等

<2月の行事予定>

★『干潟の鳥たち』定員 20 名 雨天延期 2/8 日

参加対象は中学生以上

日 時 1日(日) 8:30~11:30

場 所 夷隅川河口周辺

(集合はネイチャーセンター)



★『つるでかごづくり』定員 20 名

日 時 22日(日) 9:30~16:00

参加対象 高校生以上

場 所 ネイチャーセンター

持 ち 物 鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、お弁当等

3月の行事予定

『炭焼きに挑戦しよう』

7日(土)9:00~未定

8日(日)13:00~15:00

定員 20 名

雨天延期=14日(土)~15日(日)

『春の星座を見てみよう』

21日(土)18:00~20:30

定員 20 名

雨天延期=22日(日)

*1月4日(日)より申し込み開始

いすみ楊枝

—千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日 時 1月18日(9:30~16:00)

場 所 ネイチャーセンター

講 師 高木 守人氏

参加料 無料

内 容 楊枝・花入れ・茶杓作り

*次回は2月15日(日)です。

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

* eメール可(メールアドレス:info@isumi-sato.com(@は全角です))

* 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

*「さとのかせ」の定期購読を希望される方は、郵便代として、80円切手12枚、または960円にて受付ます。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休 館 日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間:9:00~16:30、入館料:無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。